2024/7/29 開催　いけんひろば

～～「結婚」「子育て」したい？したくない？～

いけんのまとめ　オンライン回

【オンライン】A 班（高校生世代４名） **2**

【オンライン】B 班（大学生世代３名） **6**

【オンライン】C 班（社会人世代４名） **12**

参加者アンケートでいただいた追加の意見 **16**

【オンライン】A 班（高校生世代４名）

１．将来、結婚したり子育てしたいと思っているか。

〇結婚をしたい/したくない、こどもをもちたい/もちたくない、と思うことについて、なぜそう思うか。

＜結婚について＞

- 結婚、子育てはしたいと思う気持ちと、したくない気持ちがある。
- 実際したら楽しいはずだが、プラスの面よりマイナスの面の方が多く見えてきてしまう気がする。
- 自分がやりたいことと、結婚や子育てとが両立できるか分からない。
- 日本は特に働く時間が長くて、働くことと結婚や子育ての両立が難しいと思う。
- 小学校の先生になりたいが、教員不足や過酷な労働環境の話を聞くと、結婚や子育てに十分な時間を取るのは難しいと感じる。
- 父親が育休を取ったとき、周囲から批判されたことがあり、制度はあるものの利用しづらいと感じる。そのため、将来、休みを取りたいけれどためらってしまいそう。
- すごく結婚したいという考えがあるわけではない。
- 相手探しの問題や自分のやりたいこともあるので結婚したいとは言い切れない。
- 結婚は自分のことなのに他人に助けてもらうのは申し訳なく感じる。
- 離婚するときも結婚するときも自己完結した方が周りに迷惑をかけなくて済んで良いと思っている。
- 結婚は義務と思わない方が良いと思っている。
- 自分自身の人生計画が明確になったら結婚しやすくなるのではないかと思っている。
- 結婚したいかはよくわからない。
- 支えあえる人がいる方が心強いと思うので結婚したい。

＜子育てについて＞

- キャリアと子育てを天秤にかけてしまう。子育てに関してはしたいのかどうかまだよくわからない。
- こどもの命を背負える自信がない。
- 子育てに関しては周りから必ず祝福されるとは限らないと思う。
- 小さい子をお世話して喜んでくれたときにやりがいを感じたので子育てはやりたい。
- 小さい弟の世話が楽しいので子育てに関しては楽しくできると思う。
- 保育園で職業体験をしたとき、子どもと関わることが楽しかったがそれはきっと短時間だったからだと思う。
- ドラッグストアでアルバイトしていたときに見るお母さんはみんな子どもに対して怒っていて、いずれ自分もそうなってしまうのではないかと思っている。
- 三人以上子どもがいたら経済面など不安な面が多い。
- こどもができたら保育園に預けないといけないが、保育園への信頼があまりない。
- こどもの面倒を見たいけど自分がやりたいことをやりたいので、両立はすごい難しいと思う。
- リモートでできる仕事だったらいいが、外にも出たいしやりたいことが増えていったら子育てとの両立は難しい。
- 昔の三世代世帯は子育てをする際にいかに楽だったかと思う。

- 三世代世帯は忙しいときは祖父や祖母に預けて、介護もできて助け合いができるが、今は親とこどもの二世代の家庭が多くてそれが難しい。
- 家族間でシェアハウスができると子育てしやすいと思う。
- 地域の人とは関わりが少なくて引っ越しても知らない人が多いので子育ての助けを求めるのは難しい。
- 地震の時にも助けを求められないほど地域のつながりは希薄になっている。
- みんな都会に行ってしまって、他の人とあまり話さなくなっている。
- 田舎では道端で人と出会ったときの挨拶等の風景があると思うが、都会の方ではなくなってきている。それも子育てをする人が少なくなったことに要因の一つであると感じている。
- インターネット上だけの人とのつながりも増えてきているからから、いざとなると頼れる人がいない。
- 町内で助け合える環境があるとこどもを持ちたいと思うが、自分でこどもを持つとしても一人だけだと思う。
- 二人目以降はお金がかかってしまう。その場合、自分的にも余裕がない。
- 産後うつになった親戚をみて、子育ては思ったよりしんどい印象がある。
- 子育て自体は絶対に楽しいと思っている。

２．自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか。

- 結婚する人が減少している要因は適当な相手がいないことが大きいと思う。
- 昔は男女で固定した役割があったが、今は多様性の時代で、色んな人がいるので自分に合った人を見つけるのが難しいと思う。
- 人と直接会う機会が減っていることが、結婚する人が少なくなっている原因の一つだと思う。
- インターネットが発達して自分一人で完結できる世の中になってきたことが要因だと思う。
- わざわざ人と話さなくても情報が手に入るし、人の力を借りなくても自分で何とか生きやすい世の中になってきていると思う。
- 成人している姉がいるが、結婚に関して考えている様子はなく、一人で充実した生活を送っていて一人になることの抵抗はないように感じる。
- 個が強調される時代になったことが要因だと思う。
- 経済的に余裕がないから結婚、子育てをしたいけど出来ない人がいるのではないかと思っている。
- 結婚、子育てする人が減っている現状はもうどうしようもないと思っている。
- 最近は独身でもペットを飼ったり、 対話型 AI、推しなど様々な楽しみ方があるから異性のパートナーがいなかったとしても満足している人が増えている。
- 同性愛に対して社会が寛容になっているので、異性と結婚する必要がなくなってきている。
- マッチングアプリ等を使って色んな人と交流できる環境にあるのに、うまくアクションを起こせない人が多い。
- 結婚に対して重く感じすぎていて結婚に動き出せていない人が多い気がする。
- ニュースで結婚の話題が出るとき、「結婚はお金がかかる」などの意見が一般化していることが要因と思う。
- 結婚＝大変という考えに直結してしまう。
- バツイチという表現の仕方は良くない。せっかく結婚したのに離婚することになったとき、その人にバツイチという名前がついたときに、社会的に悪く思われてしまうのが、結婚に対する抑制材料になっていると思う。

- ニュース番組で子育て世代の支援という明るめのニュースを見たとしても、子育て世代が「経済的に困っている」ことが前提で、支援が必要なものと思ってしまうので子育てをネガティブに捉えてしまっている。
- 出会いがあったとしても自信がなくて踏み出せない人がいると思う。
- 恋愛や結婚に対する自信のなさは人と比べ過ぎてしまうことに起因していると思う。
- きれいな人やかっこいい人をネットで簡単にたくさん見られるようになって、自分に対しての自信がなくなりやすくなっていると思う。
- ネットや SNS 等を通して異性に対する理想がどんどん高くなっている気がする。

〇どうすれば結婚したいと思うようになるか。

- 直接会う機会を増やすことが重要だと思う。
- 動画の中のキャラクターや芸能人は現実とは遠い存在のため、結婚のことを考えることは難しいだろう。

〇どういったコミュニティの人と結婚したいか。

- 学校は良い出会いの場だと感じる。
- 適度な距離感が保てるような自然な出会いの場を増やすことが良いのではないかと思う。
- ボランティアは良い出会いの場だと思う。
- ボランティアは大学生から社会人まで参加できるいろいろな種類があり、みんな気さくに年齢、男女問わず話せるから出会いの場としていいと思う。
- ボランティアは出会い目的の人が少ないので自然と警戒心が解ける。
- ボランティアは初めて入った人でもすぐに打ち解けられる雰囲気がある。
- ボランティアは仲の良さを自然に深める力がある。
- 塾も良い出会いの場だと思う。
- 今通っている塾は中学生・高校生から社会人まで年代がごちゃまぜな塾である。年齢の壁も感じず敬語も使わないので自然と仲良くなれる。
- 社会人になると出会うのが難しいと思う。
- PTA は女性が多いので良い出会いの場だとは思わない。
- マッチングアプリでの結婚には抵抗がある。
- マッチングアプリや合コンは使う気にも、行く気にもなれない。
- 結婚しようと思って誰かと会うよりも、友達を作ろうと思って入ったコミュニティの中で人と会う方が、気が合う人が見つけやすいと思う。
- リアルな出会いじゃないと怖い。
- 自然に出会った人の方が一緒にいて居心地が良いと思う。

３．自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- 婚活パーティーなどに行くことは未婚であることを周りに知らしめることになるものなので、未婚であることにコンプレックスを感じているとなかなか中々行きづらい。そのような人たちに行政がピンポイントで情報を行政

として届けることが重要だと思う。

- 地方自治体の取り組みもライフプランニング支援も良いと思っている。
- 本当に必要な人に支援の情報が行き届いているかが心配。
- Instagram、X、YouTube 広告を使って支援を周知させたらよいと思う。
- 年代ごとに周知のアプローチを変えると良い。
- 結婚支援をやっていることを全く知らなかったので周知がもっと必要だと思う。
- 結婚支援の場を作るのも大事だが、その後の子育てが大変なので、子育て支援を強化するのが良い。
- 自治体の取り組みを知らなかったが、結婚したい世代、子育て世代の思いを尊重できる取り組みで良い。

４．ライフプランニング支援についてどう思うか。

- 自発的にライフプランニングすることはあまりない。計画する機会を設けてもらうのは有意義なことだと思う。
- いけんひろばに参加することも立派なライフプランニングなのではないかと思う。
- いけんひろばのような機会を用意したらライフプランニングをみんな考えやすくなるのではないかと思った。

5. 上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- こどもが生まれてすぐの時は、おむつを送る等が一番手っ取り早いと思う。
- もし母親が働いている場合、子育てのためにある程度休みをとる必要が出てくる。仕事を休んで稼げなかった分のお金をある程度補填するのが良いと思う。
- 今子育てをしている父親や母親をサポートできる取り組みがあると良いと思う。
- 親を見てそのこどもが将来結婚したいと思えるような環境があると良いと思う。
- こどもが生まれた時に給付金を増やすことが良いと思う。
- 同性婚や事実婚、夫婦別姓に社会が寛容になれば良いと思う。
- 児童手当が改正されて所得制限撤廃の話があるが、正直、本当にやる気があるのかと感じてしまう。
- 児童手当が第 3 子以降 3 万円という話があるが、それではお金が足りない。本当にこどもを増やしたいと考えるなら、もう少し大きい金額を出すなど大胆な案があると良いと思う。
- 国債などを発行するともう少しできることが増えると思う。
- 国民一人一人にアンケートをとるだけでも今の国の問題点が顕在化されると思う。
- 少子高齢化が進んでいる等の問題に対してそもそも原因が突き止めきれていないから。
- 問題点があったときにその都度見通しを持った取り組みをした方がその後のダメージが少なくなると思う。
- 国をあげて結婚・子育て支援に取り組んでくれたらよいと思っている。
- こどもを増やす必要や人口を増やす必要はないと思っている。
- 人口が少ないけど経済が回っているシンガポールなどの例もある。
- 人口を増やすことは地球環境には良くない。
- AI などを使えば人口を増やさなくても経済面に関してはどうにかなるのでないかと思っている。
- 外国人を増やすと日本ではなくなってしまう。

以上

【オンライン】B 班（大学生世代３名）

１．将来、結婚したり子育てしたいと思っているか。

- 結婚・子育てをしたいと思っている。こどもが好きで、こどもを望んでいる。子育てには結婚がついてくるイメージであり、こどもを望む流れで結婚したいと思う。こどもが好きな理由について、家族がこどもに関わる職業に就いており、自分も幼稚園の先生のことが好きだったので、こどもを見守る大人を良いなと思った。年齢について、結婚は早くても嬉しい。自分は 23～24 歳で結婚を考えはじめた。同世代の友人は 25 歳を節目に本気で結婚を考え出す人が多いと思う。長期間交際している相手がいる友人からは、25 歳までに交際相手から結婚の話題が出なければ、他の交際相手を探したり、相手に結婚について尋ねたりするといった意見を聞く。友人とは結婚・子育てについてよく話す。
- あまり結婚したくないと思う。現在、大学生で金銭的な余裕がない。お金を稼げるようになったら、しばらくは一人でのびのびして趣味にお金を使いたい。結婚したら、時間等で縛られると思う。友人と結婚・子育てについて話すことはあまりない。友人とは趣味や遊びに行く場所に関して話すことが多い。
- 結婚したい。結婚は人生で一回しかできない。こどもを持つには結婚するのが「普通」のことだと思う。結婚・子育てのなかで金銭や子育てに関する不安を抱えたらどうしようとは思うが、結婚はしたいと思う。年齢について、27 歳くらいで結婚したい。24 歳で社会人になり、3 年間キャリアを積んだあとに結婚するのが理想的だと思っている。友人とは結婚・子育てについてよく話す。

２．自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか

- 自分の時間が無くなることが一番の要因だと思う。結婚相手と一緒に暮らさなくてはならないし、こどもがいれば時間が無いと思う。
- 結婚すると、少なからず結婚相手と不仲になると思う。そうした体験談を SNS でよく目にするので、結婚に乗り気でなくなると思う。
- SNS の影響が大きいと思う。SNS に結婚相手との関係が上手くいかないことを投稿している人が多いので「結婚したらこうなっちゃうのかな」と思う。
- 自分の時間や仕事に集中したいという意見もあると思う。現在は女性の働く環境も整備されている。個人の価値観が様々であるからこそ、同じ価値観の人を探すのが難しいと思う。

〇自分や周囲の人の家族・パートナーシップ観に影響を与えていると思うもの

- 自分はドラマをあまり観ないので影響は受けていないと思う。身近な家族や親族から影響を受けていると思う。両親はけんかが多く、冷戦状態が続いている姿を見ると「結婚すると幸せになれないのかな」と思う。
- 自分も両親から影響を受けていると思う。家事の分担について、夫が仕事をして妻が家事全般をすることで、けんかや最終的には離婚につながると思う。そうした話は周囲からもよく聞く。
- 自分の周りにも、両親の影響を受ける人はいる。自分もドラマをあまり観ないので影響は受けていないと思う。SNS では、結婚相手との関係がうまくいっていないという投稿内容の方がバズりやすい。良いことより、悪いことのほうが人の目にはつきやすい。SNS を通して、家事や、仕事と子育ての両立がうまくいかな

いことが、私たちに日々刷り込まれていると思う。

〇自分や周囲の人の出会いの場

- 代表的な出会いの場は、学校、アルバイト、マッチングアプリだと思う。
- 現在の交際相手とはアルバイトで出会った。周囲の人は、マッチングアプリでの出会いも多いと思う。また、女子大学に特有かもしれないが、複数の大学の学生が参加するインカレサークルの出会いで交際する人も多いと思う。インカレサークル経由で出会った人と付き合う人もいる。周囲に出会いの場は多いと思う。
- 大学のサークルは出会いが多いと思う。毎週集まり、長時間一緒に過ごしたり飲み会に行ったりすることで、交際に発展すると聞く。あとはアルバイトでの出会いが多いと思う。

＜合コンについて＞

- 合コンはよくあり、自分も参加していた。合コンで出会った人と付き合う人もいるし、飲み仲間になり友人を紹介してもらい付き合うこともある。合コンは様々な目的で行われると思う。
- 合コンに行ったことはない。全く知り合いがいない合コンは行きづらいが、知り合いがいれば行きやすそうなので行ってみたいと思う。
- 合コンがあったら絶対に行きたい。友達の友達なら仲良くなりやすいと思う。もしも普段出会わない人となら新しい出会いになるし、友達づくりの場として良いと思う。

＜ナイトクラブについて＞

- ナイトクラブは出会いの場というイメージはない。
- ナイトクラブは純粋に音楽を楽しむ場というイメージで、出会いの場というイメージはない。
- ナイトクラブはお酒を飲みながらの遊びの場というイメージで、出会いの場ではないと思う。

〇マッチングアプリでの出会い

- マッチングアプリでの出会いには抵抗がある。マッチングアプリを利用した人から、うまくいかなかった話を聞いて難しいなと思った。自分はマッチングアプリを利用したことはあるが、実際に会ったことはない。電話はしたが、実際に会うのは怖くなり、アプリを削除した。一方で、男女問わず、抵抗なく利用している人もいる。マッチングアプリで交際相手と出会う人や、マッチングアプリをずっと利用し続けている人もいる。
- 周囲の人はマッチングアプリをよく利用しており、自分の親族もマッチングアプリで交際相手と出会ったが、自分自身が利用することには抵抗感がある。自分はマッチングアプリを利用したことはない。マッチングアプリで「詐欺にあった」「お金だけ取られた」「マッチした相手が約束の場所に来なかった」といった話を聞くと、万が一同じことがあったら嫌だなと思う。
- 自分はマッチングアプリを利用したことはない。マッチングアプリでの出会いについて、そこまで抵抗感はない。長期間メッセージのやり取りをしていれば、出会ってもそこまで大きくは変わらないと思う。実際に会ったら、顔や態度が違うことやだまされることもあるとは思うが、マッチングアプリを利用してうまくいっている人は幸せそうにしているので、大きな抵抗感はない。

〇マッチングアプリ内にあったら良いと思う項目

- 実際にマッチングアプリを利用してみて、お互いのマッチングアプリの利用目的が違うと難しいと思った。探している相手は、ただの友達か、交際相手か、あるいは、飲み友達か等を質問項目に入れると分かりやすい。また、実際に会う前に連絡を十分に取りたいか、あるいは、すぐに会いたいか質問項目に入れてくれると分かりやすい。
- 周囲の人からどう見えるかといった人となりが分かると良いと思う。
- マッチングアプリを使う段階での質問項目に入れるのは気が早いかもしれないが、こどもを望むか等、結婚を見据えた質問項目があれば良いと思う。価値観は大切なので、付き合う前から価値観を知りたい。

〇人生の中での恋愛の優先順位

- 優先順位の１位は友人との楽しいことで、恋愛は２～３位。交際相手を探してはいるが、友人のほうが気を遣わないので楽に感じる。「男女の友情問題」がある。地元の友人とは男女で仲が良いが、その中で交際関係ができたら気を遣わなければならず面倒に感じる。
- 恋愛の優先順位は１～２位。交際相手をしっかり愛したいが、友人も同じくらい最優先。友人と交際相手の優先順位は甲乙つけがたい。
- 友人と交際相手が同じくらいの優先順位。周囲の人の話を聞くと、若い人でも優先順位は年齢によって変わると思う。周囲の人を見ると、学生時代は友人といることを楽しんでいた人も、社会人になると交際相手がいる。社会人になると休日が限られるので、会う人を限定したいのかなと思う。

〇人の価値観や人となりを知る方法

- 相手の価値観や人となりを知る方法は、長時間一緒にいることだと思う。初対面のときには猫を被っている人もいる。気も心も許すと、本心が見える。また、幼少期の話をすると相手のことがよく分かると思う。
- もしマッチングアプリを利用するなら、価値観や人となりはメッセージだけでは分からないので、電話や対面で話したい。また、どんな友人付合いをしているかも大切だと思う。
- 長く一緒にいることで分かるところもある。利用していたマッチングアプリの質問項目に「友人にどう思われているか」があった。相手の属するコミュニティや周囲から見た雰囲気が分かると安心材料になる。

３．自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- 自治体による結婚支援の取組は知らなかった。出会いを探している人は多いことは調査でも明らかになっているので、結婚支援は良い取組だと思う。一方で、出会いの場に行くこと自体に抵抗感を持つ方がいそうなことや、仕事、学業、アルバイトで時間がない方にどうやって参加してもらうのかなどを考えていた。
- マッチングアプリで出会いを増やすことは大切だが、出会った後も大切だと思う。出会った後は「結局私たちはうまくいく」と考えて、価値観を自主的に共有しないと思う。出会った後が大切であることをみんなに知ってもらったらよくなると思う。
- SNS の情報によって、結婚にデメリットや抵抗を感じる人が多いと思う。また、出会いの場に行きにくい人もいると思う。

- 地元が同じ人と交際できるとすぐに会えるので良いと思う。

〇自治体による結婚支援の取組に対する改善点や提案

- 結婚に対してデメリットを感じる人が多いと思うため「結婚したらこんな良いことがあるよ」「結婚前にこういうことをしていたらケンカが減るよ」といった解決策を提示できると良い。
- 結婚後も面倒を見てくれるよう相談相手がいたら良い出会いが増えると思う。どんな人でも行きやすい・話しやすい相談所があったら良いと思う。
- 結婚すると些細な「聞くほどじゃない悩み」が増えると思う。そうした些細なことを夫婦の先輩に相談できる相談所があると良いと思う。
- 結婚前後いずれでも、相談所にいくほどでないトラブルを 2 人で解決できなかったときに相談する場があったら良いと思う。相談所は重い問題ばかり取り上げられるイメージなので、小さい問題を相談できる場があると良い。相談に乗ってくれる相手の年代は関係なく、不安があるときや問題が起きたときに地域の人に相談できる場があったら良いと思う。
- 出会った後の支援は大切だと感じる。特にこどもがいない夫婦がリフレッシュできる場所があったら良い。夫婦 2 人きりで住んでいて関係がうまくいかないと居場所がなくなると思うので、同じ悩みを抱えている人同士が出会える場所があったら良い。同じ地域に住む人と知り合えるのは素敵なことだと思う反面、うまくいかなかったときに住んでいる地域が同じで偶然会ってしまうのは怖い。

〇普段、結婚・子育てに限らず、情報をどこで入手するか

- 求めた情報はすぐに見つけられるので、能動的な情報収集はあまりしていない。存在自体を知らない情報は「ないものはない」と思い込んでいると思う。
- インターネットはたくさんの情報が勝手に手元に届くので受動的になる。子育て支援に関する情報がたまたま届いた人はその情報を知ることができるが、届かない人は知ることができない。先日、子育て支援センターで妊婦面接（妊娠期から助産師や保健師等との面接ができるサポート）を知り、必然的に妊娠・出産・子育てに関する情報を知ることができる仕組みだと思った。
- 広告から受動的に情報を得ている。
- スライドショーのような形式で画像や動画を投稿できる SNS で流れる広告。
- SNS のインフルエンサーやファッションモデルの広告。
- 普段から自分の気持ちをたくさん出しているインフルエンサーだと安心感がある。
- 電車のドア横の広告。
- 渋谷のビジョン。
- 大学にちらしが貼ってあったらおのずと目に入る。
- 自分から調べない限り、情報は得られないと思う。

４．ライフプランニング支援についてどう思うか。

〇ライフプランニングについて学ぶ機会はあったか。学ぶ機会があった人はどんな内容だったか。それはいつごろか。

- 中学または高校の総合の授業で、人生について考える機会があったと思う。人生でどんなことをしたいかグラフに書きながら考える時間があった。印象に残っていることはあまりないが、楽しかった記憶はある。
- ライフプランについて学ぶ機会はなかった。家庭科の授業で裁縫や料理といった実務的なことは学んだが、何歳で結婚といったライフプランニングはしなかった。
- 家庭科の授業で、何歳に○○をするといった大まかなライフデザインをしたことはある。

〇人生やパートナーシップの関係性等について知る機会はあったか。

- 知り合いでない外部の人から結婚の話を聞く機会は少ない。夫婦間で大事にすること等について両親から意見を聞く機会はある。
- 大学のゼミナールで、家族について調査・研究している。先日、子育て家庭に滞在できる体験型プログラムを知った。色々な人の話を聞けることに興味を持ち、参加してみたいと思った。
- 両親や祖母から聞いて学んだ。友人と細かいライフデザインについて話したことは複数回ある。

〇今後のライフプランニング教育について決められるとしたら、自分より若い世代にどんなことを学んでほしいか。どんなゲストを呼んでほしいか。

- 実際に結婚している、同世代の夫婦や子育て中の人から話を聞くのが良いと思う。実際に経験しないと分からないことがあるし、実体験を交えてくれるとイメージしやすいと思う。社会情勢は変化しているので、同じ世代の人が良いと思う。話の内容は、ポジティブあるいはネガティブのどちらかに偏らず、半々またはポジティブな内容がやや多めが良いと思う。
- 子育てや結婚している人の話を聞きたい。自分は保育を学ぶ大学に所属しており、保護者やこどもから話を聞いたことがある。話をしてくれたお母さんがとても良い方で、子育てをポジティブに思えた経験がある。憧れられるような話も、気を付けたほうがよい話聞けると、子育て観を身に着けられて良いと思う。
- ライフプランニングに関する授業は、定期的に実施すると良い。時期によって考え方は変化すると思うので、学校で区切りをつけて実施できると良い。
- 夫婦問題を解決できずに抱えている人がいることについて、所属する大学のゼミナールで問題視している。大学生から定期的にライフプランニングについて考えられると良い。

〇ライフプランニングを考えるうえで、大切にしたいことがあるか。あればその内容と、そう思う理由。

- 自分が人生のなかで大切にしたいことをひとつ決めておくことは大切だと思う。人生の目標を立てると、年齢を考慮しながら、現実に沿った形で人生について考えられると思う。
- 人生の軸を決めてそれに沿ってライフプランを考えていくのが良いと思う。軸がないと「あれやりたい」「これやりたい」となり、うまくいかない。
- お金が大切だと思う。ライフプランニングについて、パートナーがいる方は一緒にお金について考えることが大切だと思う。

５．上記以外に、結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- こども家庭庁の取組に関する認知度を上げていくことが大切だと思う。自分も最近までこども家庭庁やいけんひろばというイベントを知らなかった。
- 子育てに興味を持つと、結婚や出会いの場に行くことに前向きになると思う。こどもの存在が自然に目に入る社会になると良い。たとえば、カフェ併設の保育園では、カップルが「こどもが欲しいね」という会話になったり、若い友達同士でも結婚について考えるきっかけになったりすると思う。また、結婚前に結婚や子育てについて軽い相談ができる場があると、前向きな気持ちになる人が増えると思う。
- 小さい相談ができる場や経験者の声を聴ける場があれば、不安が解消でき、結婚する人が増えると思う。

〇出会い、婚活、結婚、子育て、において、予備知識として知っておいたほうが良いと思う情報は何か。

- 結婚では、価値観のずれが大きな問題になると思うので、結婚前から価値観をすり合わせるべきだと思う。具体的には、カップルで取り組める価値観チェックシートがあると良いと思う。無料性格診断のようにアプリや SNS などで気軽にできるものがあると良い。
- 経験者から、先輩から実際に話を聞けることが大切だと思う。十人十色の悩みがあり、よくある悩みと明確に定義できるものではないので、色々な人から話を聞くことで困りごとの防止や解決ができると思う。
- 結婚では、夫婦が家事・育児をどれだけやれるかが大事であり難しいと思う。色々な生活の人がいるので、家事・育児のやり方について様々なプランを選ぶことができれば、最初から話し合って決める負担が減る。

〇「安心して結婚出産子育てをする社会」と聴いて、どんな社会をイメージするか。

- 安心して結婚生活を送ったり子育てしたりするには、お金が大切だと思う。ふたりの収入で賄えない分をサポートしてもらえると不安が減ると思う。
- 地域住民からのサポートがある社会。自分も地元の人と関わり、お宅にお邪魔させてもらったりご飯をいただいたりした。親の仕事が長引いても、安心して任せられる地域住民との付き合いがあったら良いと思う。
- 居場所が大切だと思う。特に専業主婦には社会的に孤立する人もいる。ぱっと行ける場所や、安心して子育てできる場所が地域にあると良いと思う。

〇出産によるキャリアの断絶に関する不安があるか。出産後の働き方に関する情報やロールモデルを欲しいか。

- どちらかというと働き方に関する情報は欲しい。周囲の友人も子育てで自分のキャリアがストップすると考える人が多い。自分は大学院に進学した。同じく進学した友人から、「せっかく大学院まで進学したのに、キャリアがストップするなら何が正解なのか分からなくなる」と聞く。そういった話が聞けると良い。
- 現在就職活動中で、企業説明会では育休取得率について話を聞く。実際に勤務している人に話を聞かないと職場復帰できるか分からないと感じる。
- 男性も育児休暇の取得が大切だとよく耳にするが、育児休暇を取得したとしてもどう使ったか分からずにただの休みになる人もいると聞く。ロールモデルから何が大切なのか聞けると、女性も楽になると思うのでロールモデルがいたら良いと思う。

以上

【オンライン】C 班（社会人世代４名）

１．参加したきっかけ・話したいと思っていること

- 以前、図書館で本を読んでいる中で、2015 年頃から結婚支援の取組が始まっていることを知った。現在、結婚支援の取組がどのように具体的な形となっているのか気になる。
- 婚活やマッチングアプリで付き合ったり結婚したりする感覚が分からなかったが、SNS でデミセクシュアル・デミロマンティック（関係の浅い人に対して、恋愛感情や性的欲求を抱くことができない人）に関する投稿を見て、疑問が晴れた。マイノリティではあるものの、このようなセクシュアリティの立場から結婚や子育てに対して意見を言えたらと思い、参加した。
- 社会的養護のもとにいる人たちは、他人への警戒心が強いことが多く、初対面の人に心を開くのが難しいと感じている。少子化対策の一環として、国がマッチングアプリサービスを提供しているとのことだが、自分の周りの社会的養護を受けていた人たちにとっては、マッチングした後に相手と関係性を継続していくのが難しい。また、金銭的な問題も結婚などの障害になっているかと思う。大学や短大で奨学金を借りているのが約５,６割（そのうち貸与型が約８割）いるが、その奨学金を長い期間をかけて返済していく人たちにとっては、最近流行になっている積立 NISA などの資産形成も難しいのではと感じている。金銭的な支援についても話し合えたらと思う。

２．将来、結婚したり子育てしたいと思っているか。

〇結婚をしたい/したくない、こどもをもちたい/もちたくない、と思うことについて、なぜそう思うか。

- 結婚・子育てをしたいと思っている。深い理由はないが、自然に自分の中で結婚・子育てが次のステップになっているから。
- 自発的に行動してまで結婚・子育てしたいとは思っていない。結婚したいと思える人がいればいいが、今は趣味など自分の時間を大切にしたい。女性にとっては、結婚が社会的に不利な状況になる場面もあるので、この状況が変わらないのであれば、結婚・子育てに対してあまり積極的になれない。また、趣味が合う人同士なら結婚しても良いかもしれないが、他人である以上価値観が 100%合致することはないので、他人を尊重して自分が我慢しないといけない部分が出てくるかと思う。
- こどもは好きなので、周りから強要はされたくないものの将来的には結婚・子育てしたいと思っている。ただ、自身の給与や相手と出会いがない今の状況を踏まえると、そのうち結婚・子育て出来たら良いくらいに考えている。20 代は一人で気楽に過ごせるという良さもあるので、結婚に対して強い意識が向いている状態ではない。
- 今はあまり結婚・子育てを考えていない。職場の人は結婚を考えていたり、周りから急かされたりしているが、個人的にはそこまで焦りや危機感はない。いずれ結婚・子育てを希望するかもしれないが、現状は見通しを立てられない。

〇希望する結婚年齢 ／ 希望する出産年齢 となぜそう思うか。

- こどもが 20 歳になった時の年齢から逆算して、自分がまだ仕事をしているかどうかの年齢である 30 歳ご

ろが良いのではと思っている。周りから早いうちに出産・子育てした方がいいと言われることがあるが、子育て・教育には多額の費用がかかる。現在の経済的状況を踏まえると、個人年金などで準備していたとしてもこどもを持つことを考えにくい。十分な収入を得て、自分以外にお金を使えるようになるのが 30 歳ごろだと考えている。

- 高校卒業後の 5 年間を社会人として働いたのちに大学に進学したが、大学生活にかかる費用を奨学金と自費で賄ったので、将来に向けた資産形成が十分に出来ておらず、今は結婚できる状況ではないと感じている。そのため、結婚・子育てはする時期としては、こどもを大学に通わせる見通しを立てる必要があることも踏まえると、社会的地位を得て十分な収入を得られるようになる 30 歳半ばから 40 歳になる手前ごろにならざるを得ない。
- 母が 30 歳ごろに自分を出産したので、30 歳ごろが結婚・出産の適齢期なのではと感じている。ただし、現代の方が物価や教育費が高騰していることを踏まえると、これからのこどもはいまのこどもよりさらに費用が掛かると思われる。自身が大学に進学した際は、少しでも費用を抑えられるよう推薦入学したり、親が奨学金を借りずに済むよう貯蓄したりしてくれていた。子育て支援制度が拡充してきているとは言え、社会的ニーズが高まっている修士課程への進学に対する支援はまだ十分でない等、こどもを産み育てられるのかという不安は今後も付きまとってくるのではと感じている。
- 30 代ごろをイメージしている。20 代はまだ進学中である場合や、社会人になっていたとしても奨学金の返済や収入が安定していない等により、社会的基盤が固まっていないケースが多いかと思う。

〇お金を結婚・子育ての重要な要素と考えるに至ったのはなぜか。

- SNS の影響が大きいかも知れない。自分と同じ境遇・同年代の人とＸで社会的な内容についてやりとりしていると、おすすめ欄にも類似の内容の投稿が表示されるが、同年代や上の世代の方が「貯金がない」「ボーナスがない」「年間休日が 50 日しかない求人がある」等、ネガティブな内容に触れることが多い。
- 大学で、進学パターンごとにこどもを育てるのにかかる費用を学んだ。ひとり親家庭で親が苦労している姿を見ていたので、少しでも力になりたいと思っていた。行政の支援の対象から外れたり、支援対象の場合でも支援が十分でなかったりするケースが多いと感じており、行政の現場の担当者がどれほど実態を理解しているのかは疑問である。また、致し方なく児童養護施設にこどもを預ける話を聞いたりしていると、結婚・子育てにとってお金は大変重要だと感じている。
- 自分が学費を払ってもらえない環境で、中学や高校で部活や勉強に十分に打ち込めなかった経験から、家計に関する心配が付きまとい、お金が重要だと思うようになった。大学では 3～4 年前に開始した支給型の奨学金制度を自分は利用できなかったので、多大な時間を費やして自身が利用できる奨学金を調べるなどした。金銭面に苦労して、大学生活で本来力を入れるべき勉学などに集中できなかった。自分のこどもには、金銭的な心配がない状態で学業やサークル、友人付き合い等を満喫してほしい。かつて、大学４年間でかかる費用を試算したところ、生活費と学費を合わせると、国立大学でも 1000 万円もかかることを知り、自身の未来を考えられない不安な状態を経験した。
- お金があれば選択肢が広がるかと思う。行政の支援もあるかと思うが、条件を満たせず利用できないケースも見てきた。自治体によって対応にばらつきがあると感じており、場合によっては自己責任で片づけられ

ることもあるかと思う。金銭や土地、家族や地域からの支援等の社会的基盤が必要だと感じている。

〇どういったコミュニティの人と結婚したいか。職場恋愛や学校内恋愛はハードルが高いか、あえて別のコミュニティを選ぶのか、社内結婚の方が仕事への理解があって良いと考えるか。

- 両親は職場結婚しているし、自身の周りでも職場恋愛している人も多い。フィーリングやお互いに対する許容範囲などの価値観が合う人であれば、相手のコミュニティはあまり気にしないが、相手の個性が見えてきやすいのは、長い時間一緒に過ごす同じ職場の人などになるのかもしれない。
- 職場恋愛は気まずい。また、昨今、様々なハラスメントに気を付けないといけない風潮があるので、職場恋愛が発生しづらい要因になっているのかもしれない。前の職場で他の人が恋愛関係でトラブルになっているのを見て、面倒ごとは避けたいと思うようになった。
- 自身の周囲は同じ高校で交際・結婚している人は多い。職場では年上の世代なら職場結婚もあるが、同世代ではあまり見ない。同じコミュニティの人は恋愛・結婚対象にならない。
- 自身の周囲は職場や大学、マッチングアプリなどで知り合っており結婚相手は様々である。仕事は仕事と割り切っているし、職場にほとんど女性しかいないことから、職場で恋人や結婚相手を探そうとは思わない。マッチングアプリなど別のコミュニティで相手と出会う方が向いていると感じている。

３．自分や周囲の人が、結婚しない・できない・しようと思わないのは、何が要因だと思うか

〇結婚しない理由として、「適当な相手にまだめぐり合わないから」が理由として多いとの統計データについて、どう思うか。ご自身や周囲で“出会いがある/ない”などが話題に出ることはあるか。ご自身や周りで出会いの手段として、どういったものがあるか。

- 結婚しないのは、出会いの場所がないというより、恋愛する心理的・時間的余裕がないからだと思っている。自身は、高校時代は資格勉強や部活動、大学時代はバイトや勉強で余裕がなかったので、学生時代に恋愛しなかった。同じコミュニティの人が恋愛対象にならない場合は、近所でなく、出会いがありそうな遠方までに移動する必要がある。
- 自身が通っていた定時制の高校は、１クラスあたり 15 人程度、授業は１コマ 90 分という大学みたいな雰囲気だった。大学はほとんど同性でオタク気質な人間が多く、周囲で恋愛している人がほとんどいなかった。そのため焦る気持ちも芽生えなかった。異性の友達もいたが、あくまでオタク友達のため恋愛に発展することがなかった。恋愛が盛んかどうかは環境にかなり依存すると思う。ドラマのような青春の日々を過ごしている学校では恋愛が盛んかもしれないが、進学校では勉強中心の生活のため恋愛が起こりにくいかもしれない。恋愛経験がないまま大人になると、恋愛や結婚の優先度が下がると思う。
- 学生時代は自分自身のことで手いっぱいで結婚の意識が持てなかった。児童養護施設という一般家庭とは異なる環境で過ごしてきたため、結婚に対するイメージを持てなかった。実際、知り合いに長く交際している人がいるが、母親として家庭に入り子育てするイメージなどが持てず、結婚をためらっている様子だった。小中高生が一般家庭を訪問して子育て家庭を見る取組は、多感な時期に実際の子育ての姿に触れることでイメージができるので、良い取組だと思う。自分ももっと早い時期に、一般家庭を見学・体験してみたり、実際にお父さん・お母さんがどのようにこどもと関わっているのか学んだりしてみたかった。

- 周りの人間がひどい相手に振り回されたりしているのを見て、異性に対して警戒心を持っている。テレビ越しで見るようなアイドルは「格好いい」と思うが、いざ現実世界で同じような見た目の人に会ったとしても感情が高ぶる前に一歩引いてしまう。

４．自治体による結婚支援の取組についてどう思うか。

- 自治体による取組が存在していることは知っていたが、行政の「産めよ・育てよ」というメッセージが見え透いてしまい、あまり乗り気になれない。ただし、結婚や出会いの場を提供する取組自体は良いと思う。婚活イベントを主催している方によると、そもそも異性との話し方が分からない人もいるようなので、相手を不快にさせないためのコミュニケーション・気を付けるべきポイントを教える講座を実施したら良いと思う。人間は社会的生物である以上、コミュニケーションは必須である。性別によって考え方が異なることを伝えた方が良い。例えば、男性が下ネタや筋肉の話で盛り上がっている姿を見るが、女性からすると「くだらない」「なんでそれでコミュニケーションがとれると思うのか」と感じる。たびたび、「異性が聞いたらどう思うか」という配慮ができていないと感じる場面に出くわす。
- 球場で野球観戦をしているおじさんが、売り子にくだらない絡みをしている場面や、店員に威圧的な態度をとっている場面を見ることがあるが、どのような思考をしたらそういう行動に至るのが疑問である。自分は、亭主関白だった父親を反面教師にしたり、親の姿を見たりして社会的なコミュニケーションを学べた。家庭環境は様々かと思うので、いろんなことを吸収できる幼少期から道徳の授業などでコミュニケーションについて学ぶ機会を作るのが良いかと思う。

５．ライフプランニング支援についてどう思うか。

- 高校の授業で、自分の理想の展望を実現するための長期的なライフプランを立てる練習をした。学んだ内容は、NISA や iDeCo 等長期的な資産形成を考える際の基礎となっている感覚があるので、小学校や中学校などもっと早いタイミングで自分の将来の展望を考える機会を提供したら良いと思う。
- もっと早くからお金のことについて学べたら良かったと思う。親のお金の使い方が下手だったり、場合によっては借金したりしていて、周りに金の使い方を教えてくれる人がいないこどもも多いと思う。資産の形成の仕方などお金に関することは、小学生には簡単に教え、中学生や高校生で教えた方がいい。また、NISA 等の始め方や口座開設の方法等も早い時期から教えた方が良い。
- 自分が通っていた高校では、働きながら通っている学生もいたこともあり、家庭科の先生が年金の支払猶予等の実用的な内容を教えてくれた。その先生がいなかったら知らないままだったと思う。社会に出るまで国の制度や支援、税金、お金の使い方に関することを教えてもらう機会は一切なく、自分で調べないと求めている情報にたどり着かない。小・中学生には概要を教え、高校生にはより実用的な内容を教えたほうが良い。利用できる制度や支援があることを知っているかどうかで心の持ちようは大きく変わってくる。

６．結婚の希望をかなえるために、国や自治体にやってほしいことは何か。

- 社会の意識を変えるところから必要。例えば、就活で結婚の予定について質問する企業があるとしたら、従業員が産休や育休を取って職場から離脱されるのは困るから事前確認しておきたいという意図の表れ

であると思う。会社に嫌な顔をされたくないので、従業員で結婚や子育てをためらう人もいると思う。また、マミートラック（親になった女性が職場に復帰した際に、担当業務や部署、勤務時間を変更されてしまい、その後のキャリア形成が阻害されてしまうこと）があることも以前ニュースで取り上げられていた。加えて、昨今の低賃金の日本社会を鑑みると夫婦で共働きせざるを得なくなり、子育てのために保護者が家庭につきっきりとなるのは厳しいと思われる。社会全体が結婚や子育てに対するサポートや配慮をしないと、SNS でネガティブな情報に触れている人等は結婚に後ろ向きになると思う。

- 婚活支援は企業に委託していると思うが、立ち上げ時期のため、おそらく専門的な知識を持っている人がいない状態でイベントが運営されていると思われる。もし、出会いの場を提供しているサービスの中で何かがあった時にどこが責任をとるか決まっているのか疑問。行政が主催しているサービスだから安心だと思い実際に参加してみると、委託先の人間に冷たくあしらわたり、不倫や遊び目的の怪しい人が参加したりしている可能性がぬぐえない。参加者たちの行政に期待している安心感に応えるような仕組みが必要。
- 出会いの場を作るのも良いが、支援としてはやや表面的に感じる。女性が社会で不利にならないような制度を作る等人々が納得して結婚できる社会を作っていくことが重要だと思う。国が地域やジャンルごとにどんな支援があるのか、どれくらいのお金が必要なのかなどを網羅的に掲載している Web サイトがあればよいなと思う。
- 本いけんひろばのテーマを見た時に「望まない妊娠」についても思いをはせた。乳幼児の遺棄などのニュースを見ていると、女性のみ逮捕・報道されて、男性には言及されないことが疑問である。諸外国に比べて性に対する教育が進んでおらず、ファンタジーを現実に持ち込んでくる男性も一定数いると思う。このようなセンシティブな内容はあまり情報発信されないため自分で調べる必要があり、女性に対するケアがないと、恋愛や結婚などに踏み込めないと思う。
- 望まない妊娠や性病に感染した人と接することがあるが、妊娠や性病は相手がいて生じるものである。女性の性的な悩みに関するセーフティーネットが十分に確保されていないから、誰に頼ればよいかの分からず、コインロッカーベイビーやごみ箱に捨てられる赤ちゃん、無理心中をする親が出てきてしまうのではないか。

以上

参加者アンケートでいただいた追加の意見

- 自治体の結婚支援は、急激に拡大しても効果は薄いと考える。子育て支援や働き方改革と合わせて進めていかないと、労働時間が長くて余暇の時間や恋人と過ごす時間が取れないということもあると思う。また、この政策が結婚＝子育てでない前提になるが、同姓同士の恋愛についての許容が社会的に薄いと感じている。人が人らしく生きて行く中で結婚というイベントがあるのであれば、相手の性別を社会が気にする必要はないと考えているが、国としてはどう考えているのか気になる。

以上